

# サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者になるまでの流れ

この資料については、これからサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者になるために、また、なった後その資格を維持していくためにどうすればよいかということを知るために参考となるものとして作成しました。研修の概要の理解のためにご活用ください。なお、実際に事業所にサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者を配置するにあたって要件を満たすかどうかの確認等は当該事業所を管轄する指定権者にお問合せください。

令和4年4月

神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害サービス課 事業支援グループ

事業所所在地	問合せ先
横浜市	(障害者) 横浜市健康福祉局障害福祉保健部障害施策推進課 Eメール : kf-syositei@city.yokohama.jp (障害児) 横浜市こども青少年局こども福祉保健部障害児福祉保健課 045-671-4274
川崎市	川崎市健康福祉局障害保健福祉部障害者施設指導課 (問い合わせはFAXのみでお願いします) FAX 044-200-3932
相模原市	相模原市健康福祉局地域包括ケア推進部福祉基盤課 042-769-9226
横須賀市	横須賀市民生局福祉こども部指導監査課 046-822-8411 Eメール shidokansa-shogai@city.yokosuka.kanagawa.jp ※問合せは原則Eメールでお願いします
上記以外	県福祉子どもみらい局福祉部障害サービス課事業支援グループ 045-210-4717・4732

## 1、サビ管・児発管になるために必要な2つの要件（【実務経験要件】・【研修修了要件】）

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者として配置されるためには、【実務経験要件】、【研修修了要件】を満たす必要がある。

### （1）【実務経験要件】

	サービス管理責任者の実務経験要件	児童発達支援管理責任者の実務経験要件 〔以下の年数と日数に、児童又は障害者への支援の経験が3年かつ540日以上の間を含むことが必須〕
実 務 経 験 要 件	<b>【原則】</b> ・相談支援業務5年かつ900日以上 ・直接支援業務8年かつ1,440日以上	<b>【原則】</b> ・相談支援業務5年かつ900日以上 ・直接支援業務8年かつ1,440日以上
	<b>【有資格者】</b> ・相談支援業務と直接支援業務 通算して5年かつ900日以上	<b>【有資格者】</b> ・相談支援業務と直接支援業務 通算して5年かつ900日以上
	<b>【国家資格等による業務従事期間が3年以上】</b> ・相談支援業務と直接支援業務 通算して3年かつ540日以上	<b>【国家資格等による業務従事期間が5年以上】</b> ・相談支援業務と直接支援業務 通算して3年かつ540日以上

※実際に業務に従事した日数は1年あたり180日以上

詳しくは、「障害福祉情報サービスかながわ」に掲載している「サービス管理責任者の実務経験要件」「児童発達支援管理責任者の実務経験要件」を参照

[https://www.rakuraku.or.jp/shienhi/liblary/L\\_Result2.asp?category=127&topid=4](https://www.rakuraku.or.jp/shienhi/liblary/L_Result2.asp?category=127&topid=4)

### （2）【研修修了要件】

（ア）資格を取得：まず補足研修・基礎研修を修了し 基礎研修課程修了者 となり、更に実践研修を修了

（イ）資格を維持：実践研修修了の翌年度から5年間の間に1度更新研修を修了

！注意点！

各研修（基礎、実践、更新）受講においても実務経験の要件がある

※ 研修の受講に必要なとされる実務経験

① 補足研修（相談支援従事者初任者研修の講義部分）：

サービス管理責任者等としての実務経験者となる2年前から受講可。

② 基礎研修：サービス管理責任者等としての実務経験者となる2年前から受講可。

③ 実践研修：基礎研修課程修了後2年以上の実務経験。

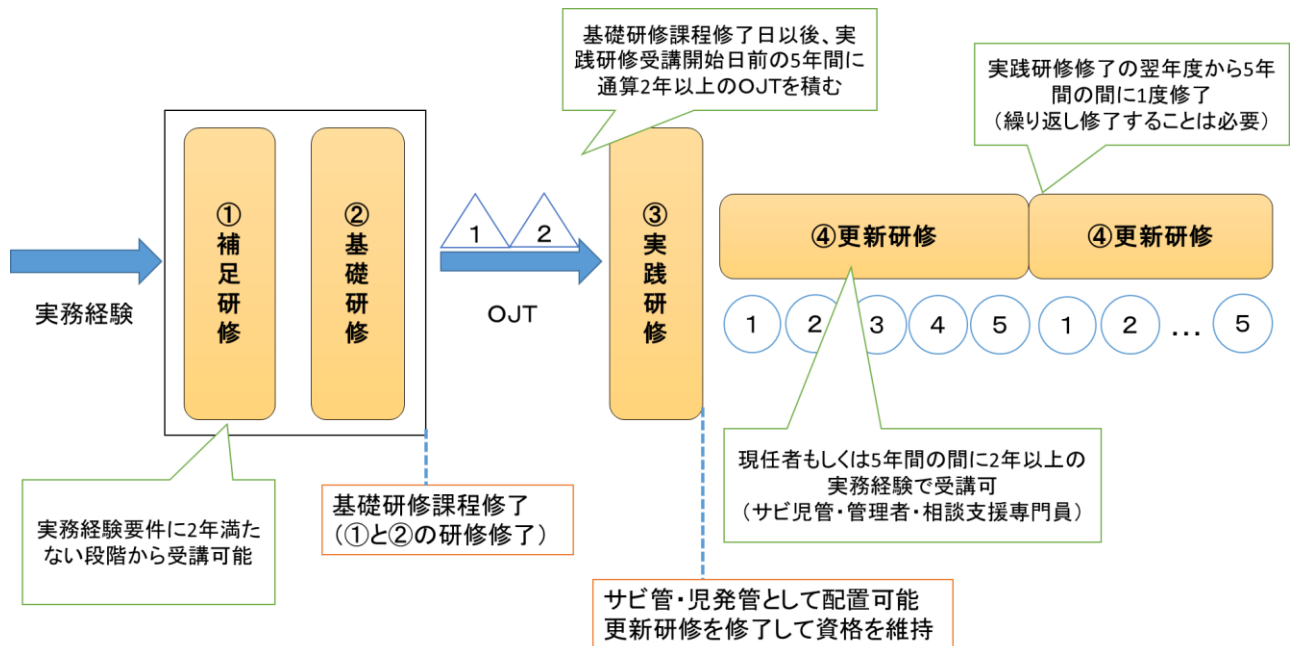
（サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての一部業務も含む。）

④ 更新研修：次のいずれかの要件を満たす場合に更新研修の受講が可

a 過去5年間に2年以上のサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者・管理者・相談支援専門員の実務経験があること

b 現にこれらの業務に従事していること

### （３）研修（サビ管・児発管共通）の受講の流れ

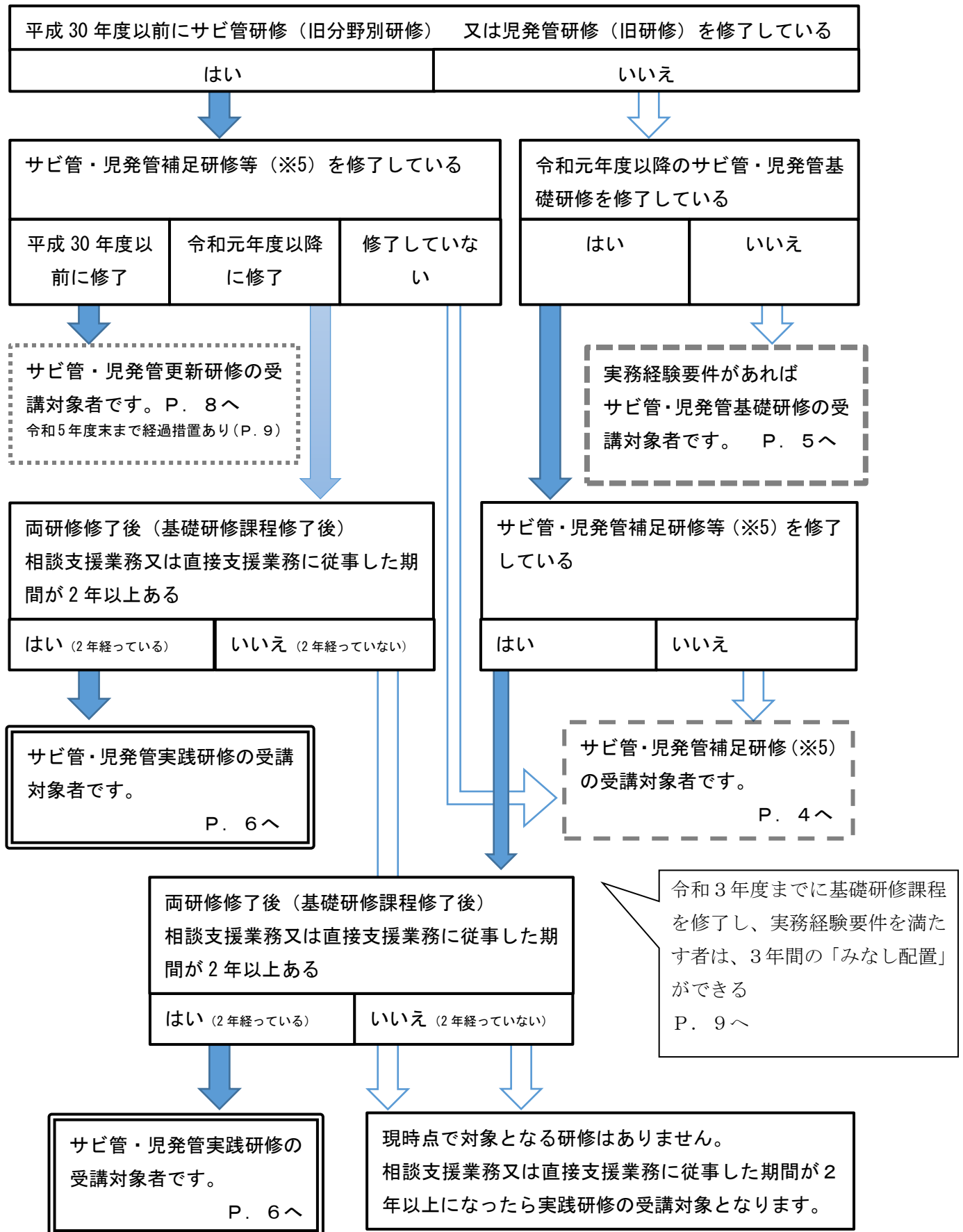


詳しくは、以下の告示を確認

「指定障害福祉サービスの提供に係るサービス管理を行う者として厚生労働大臣が定めるもの等（平成 18 年厚生労働省告示第 544 号）」  
以下「サービス管理責任者資格要件告示」という。

「障害児通所支援又は障害児入所支援の提供の管理を行う者として厚生労働大臣が定めるもの（平成 24 年厚生労働省告示第 230 号）」  
以下「児童発達支援管理責任者資格要件告示」という。

## 2. サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者 研修受講フローチャート

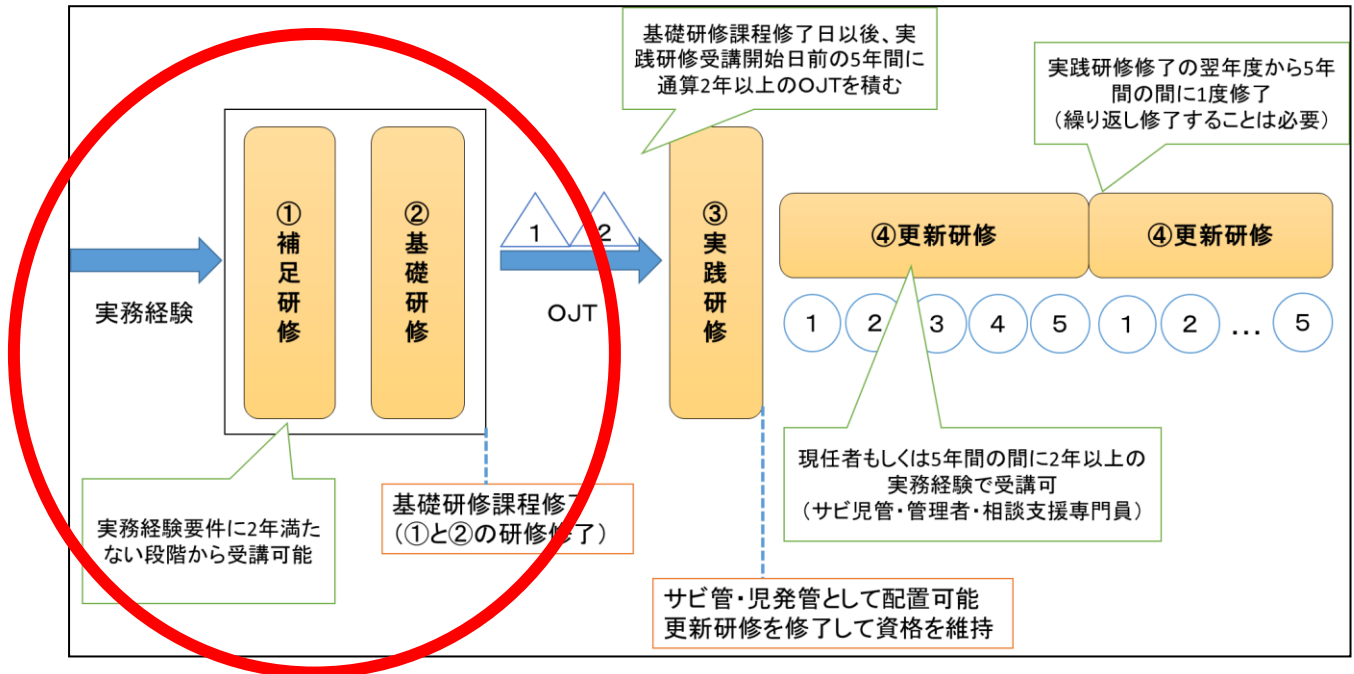


### 3. 各研修について

#### (1) 基礎研修課程修了者になるためには

①補足研修及び②基礎研修を修了することが必要。  
どちらを先に受講しても問題ない

両方の研修を修了していないと次のステップに進めません。



#### ①補足研修

「相談支援従事者初任者研修（講義部分）」のこと。

#### 【受講要件】

サビ児管の実務経験者になる2年前から受講可能

#### 【令和4年度の研修事業者】

指定番号：003

特定非営利活動法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク（KCN）

URL: <https://www.kcn.or.jp/>

## ②基礎研修

### 【受講要件】

サビ児管の実務経験者になる 2 年前から受講可能

### 【令和 4 年度の研修事業者】

指定番号：001

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

URL: <https://www.kfkc.jp/>

指定番号：002

公益財団法人かながわ福祉サービス振興会

URL: <https://www.kanafuku.jp/>

指定番号：004

特定非営利活動法人シーガル研修・研究機構

URL: <http://www.stro.or.jp/>

### ●基礎研修課程修了者の配置について

- ・既にサビ児管を 1 名配置している場合は、基礎研修課程修了者で実践研修受講前の方を 2 人目のサビ児管として配置できる。
- ・基礎研修課程修了者で実践研修受講前であっても、個別支援計画の原案を作成することができる。

### ●平成 30 年度までにどちらかの研修を修了している場合

平成 30 年度までに補足研修のみを修了している場合

⇒今後、基礎研修を修了すれば、基礎研修課程の修了者になる。

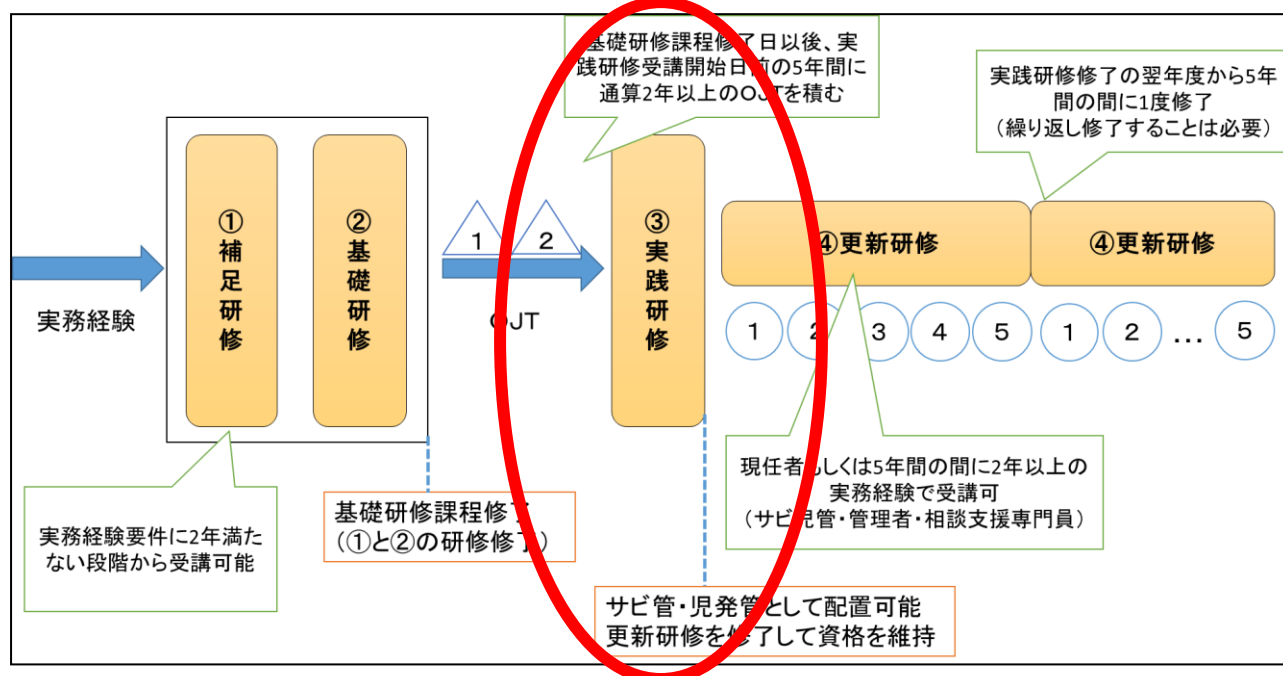
平成 30 年度までに（旧）分野別研修のみを修了している場合

⇒今後、補足研修を修了すれば、基礎研修課程の修了者になる。

## （２）正式にサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者になるには

基礎研修課程修了後、２年以上実務経験（ＯＪＴ）を積んで③実践研修を修了することが必要

※基礎研修課程修了時に、すでに実務経験要件を満たす年数の経験がある人でも、２年間のＯＪＴと実践研修の修了は必須です



### ③実践研修

#### 【受講要件】

実践研修受講開始日前５年間に通算して２年以上の実務経験

#### ● ２年以上の実務経験（ＯＪＴ）とは

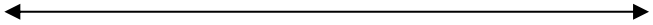
- ・各事業所内において、サビ児管と協働し個別支援計画案を作成
- ・事業所内の個別支援会議の司会進行を担当
- ・権利擁護等の研修企画の担当
- ・自立支援協議会への参画（協議会の傍聴・部会等への参加）
- ・地域診断。地域にどのような社会資源があるか確認
- ・各地域の支援事業所が主催する事例検討会等への参画
- ・サービス担当者会議への参加

などなど

※ ２年以上の実務経験は上記が想定されるが、サービス管理責任者資格要件告示、児童発達支援管理責任者資格要件告示においては、「相談支援の業務又は直接支援の業務」としており、必ずしも上記のような業務のみに限られるわけではない。

※キャリアに空きが出る場合は注意

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10 年度	R11 年度	R12 年度
基礎研 修課程 修了							実践研修 受講	

  
実践研修受講日前 5 年間で通算 2 年以上の実務

【令和 4 年度の研修事業者】

指定番号：001

社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

URL: <https://www.kfkc.jp/>

指定番号：002

公益財団法人かながわ福祉サービス振興会

URL: <https://www.kanafuku.jp/>

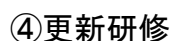
指定番号：004

特定非営利活動法人シーガル研修・研究機構

URL: <http://www.stro.or.jp/>



実践研修修了後、5年ごとに更新研修を修了する必要がある。



次のいずれかに該当する方

- |                      |                    |      |      |      |      |                   |       |       |       |       |
|----------------------|--------------------|------|------|------|------|-------------------|-------|-------|-------|-------|
| R4年度                 | R5年度               | R6年度 | R7年度 | R8年度 | R9年度 | R10年度             | R11年度 | R12年度 | R13年度 | R14年度 |
| 実践研<br>修修了           | ← この間に 1 回目の更新修了 → |      |      |      |      | ← この間に 2 回目の更新修 → |       |       |       |       |
| 1 回目                 |                    |      |      |      |      | 2 回目              |       |       |       |       |
| この場合、間隔が 5 年以上になるが可能 |                    |      |      |      |      |                   |       |       |       |       |

8

## 4. 経過措置

### (1) 平成30年度までの研修（旧体系）の修了者（令和5年度まで）

- ・令和5年度末（令和6年3月31日）までは、更新研修受講前でも引き続きサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者として配置可能

- ・「業務に従事しているものとみなされる」ため更新研修の受講要件を満たす

⇒令和5年度末まで更新研修を受講しなければならない。

※更新研修を令和5年度末までに修了できなかった場合は、実践研修を改めて修了する必要がある（基礎研修の受講は不要）。

### (2) みなし配置（令和元年度から令和3年度まで）

- ・令和元年度から令和3年度までに基礎研修課程を修了した方で、実務経験要件を満たしている場合は、基礎研修課程修了日から3年間に限りサービス管理責任者・児童発達支援管理として配置できる。

⇒みなし配置であっても、実践研修を受講しなければ正式なサービス管理責任者・児童発達支援管理にはなれないので、3年の間に2年以上の実務を積み、実践研修を受講する必要がある。

※3年間の過ぎても基礎研修課程の修了が失われるわけではない。

